



産学・地域連携推進機構

知財部門ニュース

2007年10月1日

(第7号) [通番36号]

発行：鳥取大学

産学・地域連携推進機構

知的財産管理運用部門

(旧知的財産センター)

電話：0857-31-6000(内2765)

目次

10月の特許相談会	1
産官学連携フェスティバル開催	2
利益相反セミナー	3
平成19年度知的財産関係後期授業開講・前期授業報告(学内)	4
知的財産セミナー報告	5
イノベーション・ジャパン2007・大学見本市報告	5
Q&A:「つなぐしくみ」	6~8

10月の特許相談会

相談をご希望の方は予約をお願いします。

【鳥取地区】相談員：滝本智之弁理士(電機・機械関係他)

日時：10月15日(月)13:30より

場所：産学・地域連携推進機構2階 会議室

【米子地区】相談員：田中光雄弁理士(医獣・バイオ関係他)

日時：10月12日(金)13:30より

場所：医学部学務・研究課会議室

特許と技術契約のことは知的財産管理運用部門へ

相談は随時受け付けています。

希望される場合は事前に連絡をお願いします。

相談員：佐々木茂雄 知的財産管理運用部門長

山岸大輔 NEDOフェロ(コーディネーター)

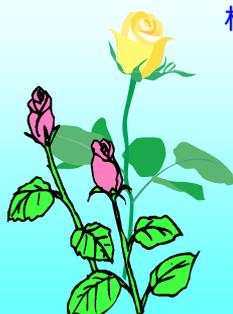
場所：産学・地域連携推進機構2F 知的財産管理運用部門

電話：0857-31-6000(直通)(内線2765)

FAX：0857-31-5474(専用)

メールアドレス：

知財部門メーリングリスト / chiteki@adm.tottori-u.ac.jp



産官学連携フェスティバル2007

今年で9回目となる「産官学連携フェスティバル2007」が開催されます。

日時：平成19年10月24日（水）

午後1時～7時

場所：鳥取県立県民文化会館

（右のポスターをご覧ください。）

今年のシーズ発表会はポスター発表で、発表ポスターを囲んで研究者と直接意見交換するセッション形式となっています。

知的財産関係では下表の12シーズが発表されます。番号枠が黄色のテーマは、発明者によるプレゼンテーションが行われるテーマです。活発なセッションが期待されます。



	所属名	発明者	テーマ
1	大学院工学研究科 産学・地域連携推進機構	小幡文雄 岡本尚機	工作機械
2	大学院工学研究科	小幡文雄	熱変形低減法(接合面を活用した表面二層化構造)
3	大学院工学研究科 大学院工学研究科	小幡文雄 上原一剛	超高精度位置決めを実現するハイブリット型直動案内
4	大学院工学研究科	近藤康雄	粉末活性炭層ろ過法による加工油剤のリサイクル処理システム
5	工学部 工学部	岡本賢治 築瀬英司	キノコを利用したアルコール類の効率的生産
6	工学部	長島正明	高強度アルミナ投光材の開発と次世代型高輝度放電ランプへの展開
7	医学部	三浦典正	採血でわかる新しい癌早期発見法
8	医学部	植木 賢	内視鏡や腹腔鏡手術に便利な把持クリップ
9	農学部 農学部	南 三郎 岡本芳晴	ケロイドを生じない生体に対する皮膚再生剤
10	農学部	緒方英彦	コンクリートのひび割れ深さ探査装置
11	乾燥地研究センター	留森寿士	塩水でも可能 !! 野菜の養液栽培（植物の栽培方法及びその栽培装置）
12	工学部	三好 力	自己組織化マップの高速学習（データを与えるだけで分類マップを高速に作成）

利益相反セミナー

産学連携活動が盛んになればなるほど「教育・研究を実施する学術機関 = 大学等法人としての責任」と「産学連携活動で生じる個人的利益」とが必然的かつ不可避に衝突・相反する現象（状態）を発生してしまう。この現象（状態）が『利益相反（Conflict of Interest）』です。

この問題について専門家の方に講演していただきます。

教職員の皆様には、臨床研究に係わる夫々の分野の特性に適合した利益相反のあり方を考える場となる絶好の機会です。学生の皆様には、産学連携活動に積極的関与することは多くのメリットがあります。さらに、教育の機会や学生の独自性・学問探究意欲等の教育面で支障が生じないようにするにはどうすれば良いかを知る場でもあります。一般の方も参加できます。多数のご来場をお待ちしています。（参加自由）



日 時：平成19年11月2日（金）16:00～18:00
会 場：<米子会場> 鳥取大学医学部臨床講義棟第2臨床講義室
<鳥取会場> 鳥取大学VBLセミナー室（TV会議）

講 師：徳島大学 研究連携推進機構 知的財産本部
副本部長 佐竹 弘 氏

題 名：平成18年度「大学知的財産本部整備事業」21世紀型産学官連携手法の構築に係るモデルプログラム
「利益相反事例解析と自己評価方法の確立：徳島大学」

主 催：鳥取大学産学・地域連携推進機構
共 催：鳥取大学利益相反委員会

平成19年度知的財産関係後期授業（学内）

◆ 主題科目・主題 「化学」開講（担当教員：中野恵文教授他）

日時：後期（金1限）のうち
佐々木茂雄知的財産管理運用部門長担当授業は
12月21日、1月11・16（水）・18（？）・25日 の5コマ
場所：共通教育棟 9号館 291室

◆ ~鳥取県、経済産業省委託 中小企業産学連携製造中核人材育成事業~ 液晶ディスプレイ関連産業における中核人材育成【プロダクトイノベーション課程】 実証講義開講

テーマ：「イノベーションと知的財産」
日時：10月6日（土） 10:30～12:00
場所：工学部大学院棟 大ゼミナール室
講師：佐々木茂雄知的財産管理運用部門長・教授

◆ MOTイノベーションスクール後期（技術経営応用研究）開講

テーマ：「知的財産戦略論」
取得した知的財産権をいかに活用するか、そのためにはどのような手段・方法を身につけなければならないかを、「攻め」と「守り」の両面から実例を交えて展開
日時：12月8日（土） 8:50～10:20
場所：工学部 2階 第21講義室
講師：佐々木茂雄知的財産管理運用部門長・教授



平成19年度知的財産関係前期授業（学内）

前期授業は次のとおり実施しました。

◆ 主題科目・主題 「技術と知的財産」（担当教員：佐々木部門長・教授）

日時：前期（火2限）
場所：共通教育棟 4階 571-1講義室
受講者：11名

* 特別授業：6月12・19日

講師：鳥取県知的所有権センター
特許情報活用支援アドバイザー
村上耕一氏

内容：「特許技術情報の調査方法」
身近な事例（マグネット等）を例にした講義の後、選択したテーマの特許情報検索（特許電子図書館（IPDL）に接続）及び調査の実習。



村上 AD の特別授業風景

◆ MOTイノベーションスクール前期（技術経営論）

テーマ：「知的財産マネジメント論」
日時：6月9日（土） 10:30～12:00
場所：工学部 2階 第21講義室
講師：佐々木茂雄部門長・教授
受講者：107名

知的財産セミナー開催

平成19年9月4日(火) 知的財産セミナー(知的財産管理運用部門主催)が鳥取大学の鳥取・米子地区(ライブ中継)各会場で開催されました。講師には佐藤弥(わたる)氏(中国経済産業局産学官連携担当参事官室)を迎え、「イノベーション創出のための今後の知的財産戦略」と「中国地域における大学発ベンチャーの現状と創出・成長促進に向けた取組み」について、長時間にわたり講演していただきました。参加者は鳥取地区41名米子地区10名で、全員が熱心に聴講し活発な意見交換や質疑応答が行われ有意義なセミナーとなりました。

(セミナー資料希望者は知的財産管理運用部門まで)



佐藤弥講師



イノベーション・ジャパン2007・大学見本市

国内最大規模の産学マッチングの場である「イノベーション・ジャパン2007・大学見本市」が、9月12日から14日まで東京国際フォーラムで開催され、本学の3名の教員に対し多くの企業・大学関係者から技術相談や共同研究の申し入れ等がありました。

鳥取大学の発表は次の3件でした。

▶ 新技術説明会プレゼンテーション1件

- ・成果の名称:「コンドロイチン硫酸資源開拓における魚介類不可食部の有効利用」
- ・説明者:地域学部地域環境学科 田村純一准教授

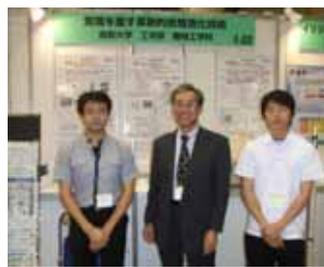
▶ 展示2件

成果の名称:「常識を覆す革新的な低騒音化技術」
発明者:工学部 西村正治教授

成果の名称:「菌根菌を利用した希少ラン科植物の増殖保全技術」
発明者:農学部 岩瀬剛二教授



田村准教授面談



西村教授展示



岩瀬教授展示

Q & A 「 つなぐしくみ 」

Q . 平成19年度から独立行政法人科学技術振興機構（以後「JST」と記載します）が募集している新規制度「つなぐしくみ」について、お尋ねします。これは、どのような制度ですか？

A . この制度はとても有効なので、是非多くの教職員または研究者等に活用していただきたいですね。まずは、この概要をご説明しましょう。

（この説明は、JSTのHPに掲載されている内容や表現または図表を使用し、Q&A形式に改編しています。詳しくは、つなぐしくみ URL・・・<http://www.jst.go.jp/tt/tsunagu/index.html> をご覧ください。）

概要：

大学等で創出・育成された技術シーズの中から実用化に向けた発展が期待される課題を収集し、目利き人材が特許、技術や市場規模等の調査を行い、その結果を基に応用・発展性に係る評価分析を実施し、次の実用化ステップへ円滑につなげる支援を行うことにより実用化を促進する。

Q . 前の概要説明文中「大学等」を詳しく教えて下さい。

A . 大学等とは、国公立大学、大学共同利用機関、高等専門学校、国立試験研究機関、公立試験研究機関、研究を行っている特殊法人・独立行政法人・公益法人を表しています。

Q . また「目利き人材」というのは、どういう方のことを指しているのですか？

A . 目利き人材とは、企業等において研究開発に携わるとともに製品化の実績があり、専門的な知識と経験を蓄積したJSTの技術移転プランナーや、必要に応じてJSTが選任する外部の専門家を表しています。つなぐしくみの事業推進のために、統括責任者に対し調査協力と助言を提供します。

Q . 次に、この特徴をお尋ねします。

A . 「つなぐしくみ」の特徴はつぎのとおりです。

調査・分析・レポート：

JST内外の目利き人材が、特許、技術や市場規模等の調査を行い、その結果を基に応用・発展性に係る評価分析を実施し、その結果を「目利きレポート」として申請者等に返送します。

費用負担： 実用可能性に係るデータの追加取得や検証が必要な課題については、データ追加取得等のための費用を支出します。

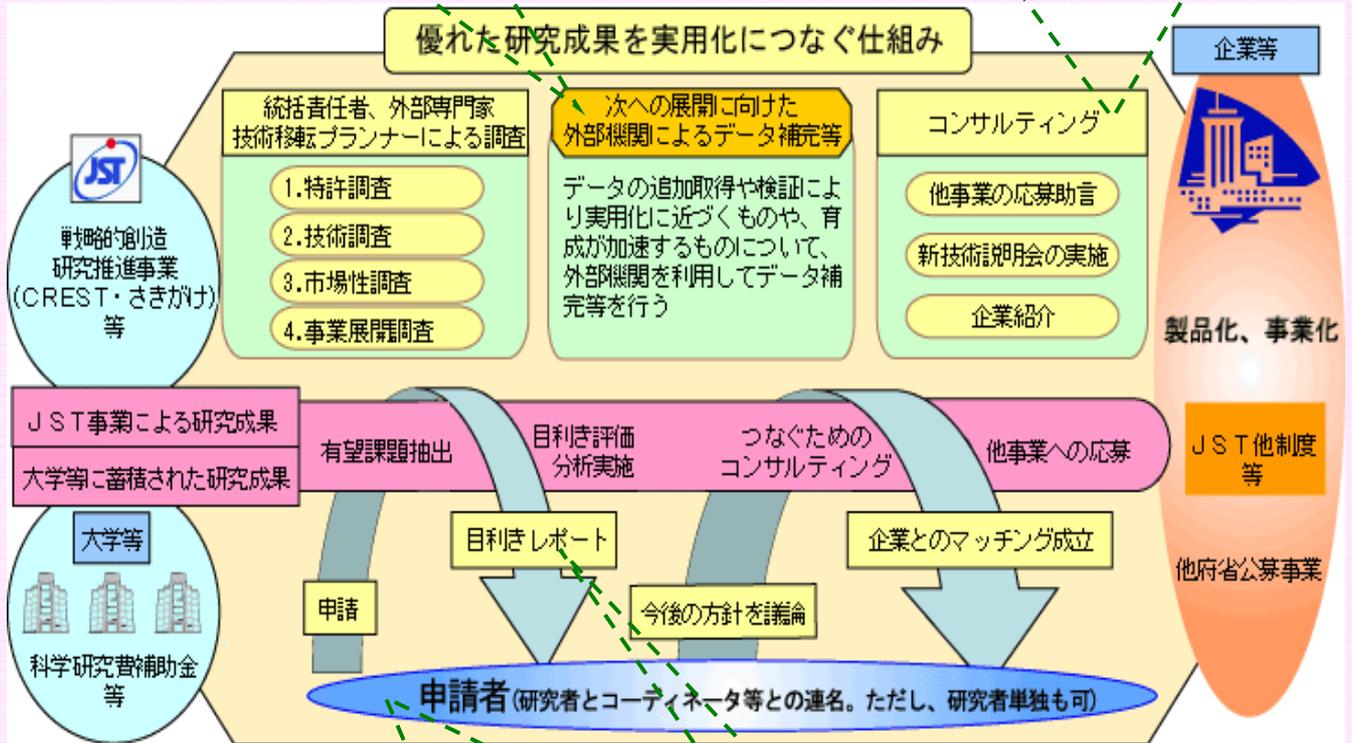
各種支援： 目利き人材が、最適な他の研究開発制度の紹介、共同研究やライセンスにつながる場の提供、企業紹介等の実用化に向けた支援を行います。

Q . 「つなぐしくみ」の仕組みとは、どのような内容ですか？

A . 「つなぐしくみ」の仕組みは、次ページの図で表されています。説明文と合わせてご覧ください。

これについては JST が費用を支出して外部機関によるデータ補完等を実施します。

希望に応じ、「目利きレポート」に基づいて、当該課題を実用化に結びつけるために効果的な研究開発制度の紹介、共同研究やライセンスにつながる場の提供、企業紹介等の支援を行います。



大学等で創出・育成された技術シーズの中で実用化につなげるための評価分析を希望する課題を、大学等の研究期間に所属する「研究者」またはコーディネータ等の「技術移転支援者」に申請します。

結果は、「目利きレポート」として申請者等に送付します。

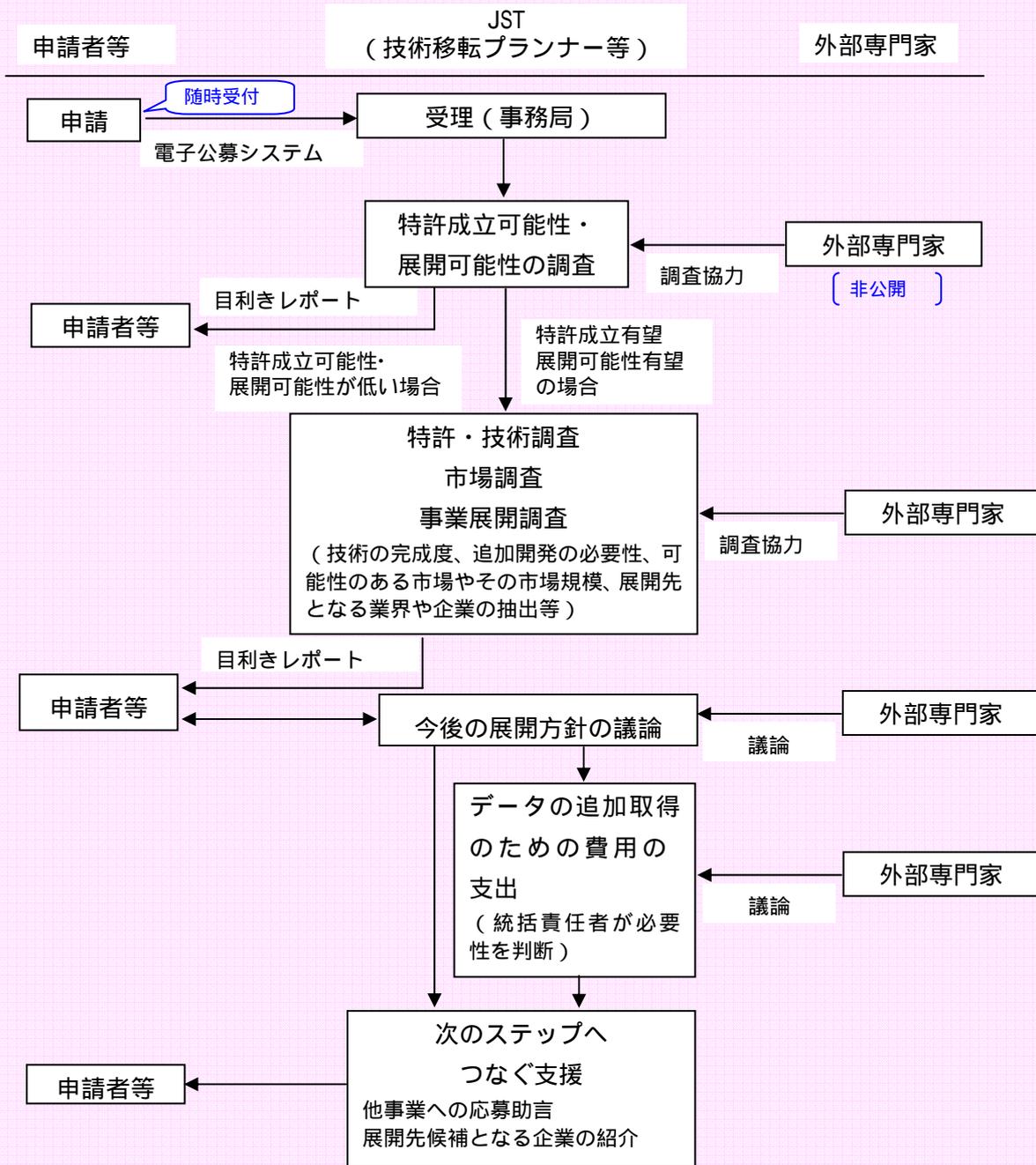
申請された課題について、目利き人材が調査、評価分析を実施します。

Q . 前の図中、吹き出し に「コーディネータ等」とありますが、どういう方ですか？

A . コーディネータ等とは、大学等の公的研究期間の研究成果を発掘し、研究シーズや企業ニーズの探索やマッチング、研究シーズの育成、研究成果の各種制度や企業への橋渡しを主たる業務としており、コーディネータ以外にアドバイザー・マネージャー・プランナー・プロデューサー等と呼ばれ、国・地方公共機関・非営利団体・公的機関・大学等（ただし、TLO を含む。）に属している産学官連携分野の専門家です。

Q . これまでの説明で、事業内容は随分わかってきましたが、実際に申請するときにはどのような流れになるのでしょうか。

A. 下の図は、つなぐしくみ事業の流れを図にしたものです。少し説明を加えていますが、その他主なもので「目利き人材による調査及び評価分析」の調査予定件数（70件程度）やその調査時期、また「データの追加取得のための費用負担」についても限度額があります。



Q. 鳥取大学では、誰に相談すればよいのですか？

A. 鳥取大学産学・地域連携推進機構には、4部門（研究推進部門、知的財産管理運用部門、地域貢献部門、米子地区地域連携部門）があります。それぞれに所属する教職員および各専門分野担当のコーディネータに相談されるのがよいと思われます。詳しくは、産学・地域連携推進機構HP（<http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/>）のスタッフおよびコーディネータ紹介をご覧ください。